

オムロン音声付電子体温計 音声ガイド

このたびは、オムロン音声付電子体温計
MC - 174Vをお買い上げいただきありがとうございます。

この音声ガイドは、商品の主な機能、使い方を説明したものです。
商品と一緒に入っている取扱説明書の内容を、すべて網羅しているもの
ではありません。

この点をご理解・ご了承いただき、ご使用前に、取扱説明書も併せてご
確認くださいませよう、お願い申し上げます。

なお、この音声ガイドの内容は、2011年10月現在のものです。

この音声ガイドの内容は、次の13の項目に分かれています。

13の項目は次のとおりです。

- その1・次のものが入っていますか？
- その2・各部の位置と名称
- その3・体温計の正しいあてかた
- その4・体温の測りかた
- その5・こんなときは正しく測れません
- その6・故障かな？と思ったら
- その7・電池の交換のしかた
- その8・使い終わったら
- その9・検温のしくみ
- その10・安全上のご注意
- その11・仕様
- その12・保証規定
- その13・お問い合わせ

以上です。

この他にご不明な点がありましたら、取扱説明書をご確認いただくか、
またはオムロンお客様サービスセンターへお問い合わせください。

オムロンお客様サービスセンターの電話番号は、0120(30)6606番で
す。通話料は無料です。

受付時間は、祝日を除く月曜日から金曜日の午前9時から午後7時までです。
ファクスもご利用いただけます。ファクス番号は、0120(10)1625番
です。こちらも通信料は無料です。

なお、都合によりお休みの場合や、受付時間が変更となる場合があります。あら
かじめご了承ください。

その1・次のものが入っていますか？

入っているものは次の五つです。

- 1 本体
- 2 収納ケース
- 3 お試し用電池（リチウム電池CR2032・1個）
- 4 取扱説明書
- 5 EMC技術資料

以上です。

本体は収納ケースに入っています。お試し用電池は、お買い求めの際、本体に内蔵されています。

取扱説明書には、医療機器添付文書と品質保証書も一緒に表記され付いています。品質保証書は裏面に表記され付いていますので、取扱説明書は紛失しないよう大切に保管してください。

EMC技術資料とは、周辺の電子機器にも体温計にも、電磁妨害を生じないことを詳細に説明する資料です。ここでは、とくにこの資料については触れておりません。あらかじめご了承ください。

その2・各部の位置と名称

収納ケースの中に本体が入っています。

収納ケースは、中央部分の平になっている面に△の記が付いています。こちらがケースの表側になります。この△の記の上のほうにある突起部分を軽く押し上げてフタを開け、本体を取り出します。

本体の上の部分、これは、手のひらに収まるくらいの大きさです。この部分の平らになっている面が体温表示部で、本体正面となります。細くなっているほうの先端がわきなどに差し込む部分で、少し平たくなっています。

表示部は、中央に体温を表示する画面があり、その上にスピーカー、下に音声スイッチがあります。音声スイッチには、点字で「きく」と記されています。

本体の右側面には、突起の付いた上下に動く電源スイッチがあります。

本体の上部には、突起の付いた音量スイッチがあります。

音量は、「大」「中」「小」の3段階に調整できます。本体の細くなっている部分はプローブといい、この先端が感温部、即ち、体温を感知する部分です。この部分をわきなどに差し込みます。

本体裏面には、電池カバーがあります。

その3・体温計の正しいあてかた

体温を測る際、正しい場所に正しくあてて測らないと、正確な検温の値が得られない場合があります。体温計の正しいあてかたをご説明します。

●まず、「わき」で測る場合です。

感温部をわきの中心にあてます。わきの中心は、まわりより温度が高く、くぼんでいるところです。

差し込む際は、表示部を、腕のほうではなく、体のほうに向けて、わきの下から押し上げるようにしてはさみ、わきをしっかりしめます。

このとき、体温計をはさんだ角度が、斜め下30度から45度くらいになるようにしてください。

わきと体温計が密着するように腕を軽く押さえてください。

なお、上から差し込むと、わきのくぼみにあたりません。また、横から差し込むと先端がわきから出てしまいます。

●次に、口の中で測る場合です。

感温部を、舌の裏側のつけ根の、中央のすじの左右どちらかにあてます。表示部を上向きにしてあてます。舌で体温計を密着させて口を閉じます。

体温計がずれないように、体温計を手で支えます。

検温中は口を開かず、口で呼吸をしないようにします。

その4・体温の測りかた

次の手順で検温します。

1 電源を入れる

体温計を収納ケースから取り出します。

本体は、「その2・各部の位置と名称」でもご説明しましたが、手のひらに収まるくらいの大きさの体温表示部の平らになっている面が本体正面となります。細くなっているほうの先端が、わきなどに差し込む部分です。

本体の右側面にある突起の付いた電源スイッチを押し上げて、電源を入れます。

「ピッ」とブザーが鳴ります。

この時、表示部は全部点灯表示します。そのあとすぐ、「測ってください」と音声案内されます。これで準備完了です。なお、この時、表示部分にはアルファベットの「L」の文字が表示され、その右下に温度の単位「℃」が点滅します。

音声が大きすぎる、または小さすぎるときは、本体の上部にある突起の付いた音量スイッチで、音量を調整してください。音量は、「大」「中」「小」の3段階に調整できます。音量スイッチを押すごとに、「音量大です」「音量中です」「音量小です」と切り替わります。お買い上げいただいた最初は、「大」に設定されています。なお、約3分間放置すると、「ポン 自動的に電源が切れます」と音声案内され、オートパワーオフ機能によって自動的に電源が切れます。次回使用するときには、電源スイッチを、いったん押し下げてから再び押し上げて、電源を入れ直してください。

2 体温計をわきにはさむ

体温計をわきにはさみます。口の中で検温するときは、舌の裏側のつけ根にあてます。「ポン 測っています」と音声案内され、検温がスタートします。なお、表示部に、アルファベットの「L」以外に温度が表示されることがありますが、そのまま検温を続けてください。もし、「ポン はさみ直してください」と音声案内されたら、「その3・体温計の正しいあてかた」をもう一度確認して、体温計をはさみ直してください。

温度上昇がほとんどなくなると、「ピポピポ」とブザーが3回鳴り、「36度8分です」などと音声案内されます。この時、表示部の温度の単位「℃」が、点滅から点灯に変わります。ブザーが鳴ったかどうか分からない場合は、音声スイッチを押して、音声案内で確認してください。その時、ブザーが鳴る前、つまり測定中の場合には、音声スイッチを押すと、「測っています」と音声案内します。ブザーが鳴った後は「36度8分です」などと音声案内します。ところで、正しく体温を測るには、わきでは約10分間、口の中の場合は約5分間、測り続けてください。これについて詳しくは、「その9・検温のしくみ」をお聞きください。

3 電源を切る

検温が終わったら、電源スイッチを押し下げて電源を切ります。「ピピッ」とブザーが鳴り、そのあと電源が切れます。

なお、測定が終了した後に電源を入れたまま約30分間放置すると、「ポン自動的に電源が切れます」と音声案内され、オートパワーオフ機能によって自動的に電源が切れます。ただし、電池の消耗を防ぐため、使用後は、できるだけ電源をお切りくださいますようお願いいたします。自動的に電源が切れた場合は、次回使用するとき、電源スイッチを、いったん押し下げてから、再び押し上げて電源を入れてご使用ください。

なお、使用後は、汚れや破損などを防ぐため、本体を収納ケースに入れて保管してください。

その5・こんなときは正しく測れません

- 運動や入浴、飲食の直後は正しく測れません。
30分以上時間をあけて測りましょう。
- 長い時間、布団の中にいたりして、わきの下が汗ばんでいるときは正しく測れません。わきの下の汗をきれいにふき取って測りましょう。
- 起床後、すぐに動き出したときは正しく測れません。
起床直後に動き出したときには、体温が高くなり、体温の変動が大きくなっています。起床後、動く前に測るか、動き出してから30分以上時間をあけて測りましょう。

その6・故障かな?と思ったら

音声案内されない、測れないなど、「故障かな?」と思われる場合の処置の仕方を、具体的な例をあげながらご紹介します。

- 電源スイッチを押し上げても音声案内されない場合。
表示部には、何も表示されません。電池の+-の向きが間違っていないか。電池を正しく入れ直してください。電池が消耗している可能性があります。新しい電池（CR2032）と交換してください。
- 「ピーピーピー測れません」と音声案内される場合。
表示部には、エラーを表すアルファベットの「Er.」と数字が表示されません。数字は、0から4を表示します。本体が故障している可能性があります。オムロンお客様サービスセンターへお問い合わせください。
- 検温中に、次の音声案内がされた場合。
 - ◎「はさみ直してください」
表示部は、検温中の値です。体温計の感温部を正しくあてていますか。「その3・体温計の正しいあてかた」を確認してください。
 - ◎「測れませんでした。自動的に電源が切れます」
表示部は、検温中の値です。体温計の感温部を正しくあてていますか。正しくない状態が約3分続くと、オートパワーオフ機能によって自動的に電源が切れます。「その3・体温計の正しいあてかた」を確認してください。電源を入れ直して検温してください。
 - ◎「42℃を超えています。測れません」
表示部は、アルファベットの「H」を表示します。これは高温を表します。感温部の温度が42℃を超えています。感温部を、よく絞ったぬれタオルなどで冷やして、もう一度測り直してください。
- 検温値がばらつく場合。
体温計の感温部をあてるところが、検温するたびに変わっていませんか。「その3・体温計の正しいあてかた」を確認してください。
- 思ったより検温値が低いと思った場合。
 - ◎体温計を正しくあてていますか。「その3・体温計の正しいあてかた」を確認してください。
 - ◎汗をかいていませんか。汗をふいてから、もう一度測り直してください。
 - ◎ブザーが鳴るときの温度について。ブザーの鳴る温度は、温度上昇のしかたによって変わります。「その9・検温のしくみ」を確認してください。
 - ◎予測式体温計で測った場合と比べていませんか。この体温計は予測式体温計ではなく、実測式体温計です。実測式体温計の場合、ブザーが鳴ったときの温度は、ほぼ平衡温、即ち、体の内部の温度と同じくらいの温度に達していますが、まだ少し温度上昇します。より正しい体温を測るには、わきでは10分間、口の中の場合は5分間測定してください。

●音声スイッチを押しても検温結果が音声案内されない場合。

ブザーが鳴るまで測定しましたか。表示部の温度の単位「℃」は、点滅ではなく点灯していますか。ブザーが鳴るまで温度上昇しないと、検温結果は音声案内されません。ブザーが鳴るまで、検温してください。

その7・電池の交換のしかた

使用電池は、リチウム電池CR2032、市販品です。

電源を入れたときに、電池の容量がわずかになっている場合、表示部の電池マークが点灯し、「電池を交換してください」という音声案内があります。その時は電池を交換してください。

なお、電池が完全にきれている場合は、電源を入れても音声案内しません。ご注意ください。

電池の交換は、次の1から4の手順で行います。

- 1・本体裏面の電池カバーのネジを、小型ドライバーでゆるめます。
- 2・電池カバーを取り外し、細くて折れにくい棒で電池を取り出します。電池は飛び出すことがあるので、ご注意ください。
- 3・電池を、+面を表にして入れます。このとき、電池は、上のほうから差込むようにして押さえながら入れます。
- 4・電池カバーを元通りに取り付けて、ネジで固定します。
以上です。

なお、お買い求めのときは、本体にお試し用電池が内蔵されています。お試し用電池は、電池寿命の期間内に切れることがありますので、ご了承ください。

また、使用済み電池や本体の廃棄方法は、お住まいの市区町村の指導に従ってください。

その8・使い終わったら

体温計は、いつも清潔にお手入れしてください。

お手入れの方法は次のとおりです。

- 本体の汚れは、乾いたやわらかい布でふき取ってください。
- 汚れがひどいときは、水または中性洗剤をしみ込ませた布をかたく絞ってふき取った後、やわらかい布でからぶきしてください。
- アルコールを使って汚れをふき取る場合、表示部にかからないようにしてください。
- 次のことを守ってください。故障の原因になります。
 - ・汚れを落とすときは、ベンジン、シンナーなどを使用しないでください。
 - ・本体内部に、水などが入らないように注意してください。
 - ・体温計の感温部を、アルコールに浸したり、50℃を超える熱湯で消毒しないでください。
 - ・超音波洗浄をしないでください。
 - ・水気が付いたままでケース内に収納しないでください。必ず、乾いた布でふき取ってください。

また、体温計は、収納ケースに入れて保管してください。

次のようなところには保管しないでください。故障の原因になります。

- ・水のかかるところ。
- ・高温多湿のところ。
- ・直射日光があたるところ。
- ・暖房器具のそば。
- ・ほこりの多いところ。
- ・塩分などを含んだ空気の影響を受けるところ。
- ・傾斜、振動、重圧、衝撃のあるところ。
- ・化学薬品の保管場所や腐食性ガスの発生するところ。

その9・検温のしくみ

温度上昇がほとんどなくなると、ブザーと音声でお知らせします。

なお、人によって温度上昇の遅い人と速い人がありますので、ブザーが鳴るまでの時間、そのときの温度には個人差があります。あらかじめわきを閉じて温めておくと上昇が速いです。

一般的に実測式体温計の場合、正しく測るには、わきで約10分、口の中で約5分の時間が必要です。

温度は測り始めるとともに徐々に上がっていきます。温まって温度変化がなくなるまでに、わきをしっかりと閉じて、約10分、口の場合は、口をしっかりと閉じて約5分かかるといわれています。

その10・安全上のご注意

ここに示した内容は、商品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる人や、他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。

商品をご使用になる際の警告と注意があります。警告と注意の意味は次のとおりです。

警告：誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示します。

注意：誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり物的損害の発生が想定される内容を示します。なお、物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットに関わる拡大損害を示します。

では、警告と注意をご説明します。なお、それぞれ「必ず守ること」と「してはいけないこと」があります。

●警告：必ず守ること

◎検温結果の自己診断や治療は危険です。医師の指導に従ってください。

自己診断は、病気が悪化する原因になります。

◎乳幼児の手の届かないところに保管してください。また、お子様だけのご使用はさけてください。自分で無理に測ろうとしてけがをする原因になります。

◎電池やネジ、電池カバーは、乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が電池やネジ、電池カバーを飲み込む恐れがあります。飲み込んだときは、すぐ医師の治療を受けてください。

●警告：してはいけないこと

◎本商品はわきや口中用の体温計です。それ以外、例えば耳などで検温しないでください。正しい検温ができません。耳などを傷つける原因になります。

◎本体が水などでぬれた状態で測定しないでください。正しい検温ができません。病気が悪化する原因になります。

◎人の検温以外には使用しないでください。けがや故障の原因になります。

◎電池を加熱したり、火の中に入れてたりしないでください。金属リチウムが溶解して、激しく破裂し、発火します。

●注意：必ず守ること

◎電池の＋極－極を正しく入れてください。発熱や液漏れ、破裂などにより本体の破損や、けがの原因になります。

◎指定の電池を使ってください。発熱や液漏れ、破裂などにより本体の破損や、けがの原因になります。

●注意：してはいけないこと

◎本体を噛まないでください。事故や故障の原因になります。

◎複数の人で併用しないでください。病原菌の感染する原因になります。

◎本体は、防水ではありません。本体内部に、水などが入らないようにしてください。検温値に誤差が生じたり、故障の原因になります。

◎強い静電気や電磁波のある場所で使用しないでください。

検温値に誤差が生じたり、故障の原因になります。

◎分解や修理、改造をしないでください。

検温値に誤差が生じたり、故障の原因になります。

その他のお願いです。

本体や収納ケースに強いショックを与えたり、落としたり、踏んだり、振動を与えたりしないでください。

その11・仕様

この体温計の仕様、即ち、動作・機能などをご紹介します。

販売名：オムロン 音声付電子体温計 MC - 174V。

電源電圧：DC3V（リチウム電池CR2032・1個）。

消費電力：100mW。

電池寿命：約350回（実測10分の場合）。

感温部：サーミスタ。

測定方式：実測。

体温表示：3桁表示。温度の単位を表す°C表示。

0.1度ごとに表示。

測定精度：±0.1°C。

（標準室温23°Cにて、恒温水槽で実測測定した場合。恒温水槽とは、実験や試験などに使用される水槽）。

測定範囲：32.0°C～42.0°C。

使用環境温湿度

周囲温度：+10°C～+40°C。

相対湿度：30%RH～85%RH。

保管環境温湿度

周囲温度：-20°C～+60°C。

相対湿度：30%RH～95%RH。

本体質量：約26グラム（電池を含む）。

外形寸法：幅34.9ミリメートル、長さ132.5ミリメートル、厚さ21.8ミリメートル。

付属品：収納ケース。お試し用電池（リチウム電池CR2032・1個）。取扱説明書（医療機器添付文書および品質保証書付き）。EMC技術資料。

本商品は、EMC規格IEC60601-1-2：2007に適合しています。

その12・保証規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書にしたがった正常な使用状態で、お買い上げ後1年以内に故障した場合には無償修理または交換いたします。
2. 無償保証期間内に故障して修理を受ける場合は、オムロンお客様サービスセンターにご連絡ください。
3. 無償保証期間内でも次の（イ）から（チ）の場合には有償修理になります。
 - （イ）使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷。
 - （ロ）お買い上げ後の落下などによる故障および損傷。
 - （ハ）火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や電源の異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障および損傷。
 - （ニ）品質保証書の提示がない場合。
 - （ホ）品質保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
 - （ヘ）消耗部品。
 - （ト）故障の原因が本商品以外に起因する場合。
 - （チ）その他取扱説明書に記載されていない使用方法による故障および損傷。
4. 品質保証書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。
5. 品質保証書は本規定に明示した期間、条件のもとにおいて無償保証をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
6. 補修用部品は製造打ち切り後、最低6年間保有しています。

その13・お問い合わせ

オムロン健康商品・修理・別売品・消耗品に関するお問い合わせ先をご紹介します。

オムロンお客様サービスセンター

電話番号：0120（30）6606番。通話料無料。

ファクス番号：0120（10）1625番。通信料無料。

受付時間、祝日を除く月曜日から金曜日午前9時から午後7時まで。

都合によりお休みの場合や、受付時間が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

ホームページアドレス：<http://www.healthcare.omron.co.jp/>

こちらの通信料はお客様ご負担となります。

別売品・消耗品は、インターネットでもお買い求めいただけます。

製造販売元：オムロンヘルスケア株式会社

住所：〒617-0002 京都府向日市寺戸町九ノ坪53番地